

## 平成 30 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会 第 5 回会議概要

### <開催日>

平成 30 年 8 月 2 日（木）

### <場所>

本庁舎 6 階 第 3 委員会室

### <出席者>

外部評価委員（5 名）

山口道昭、岸本幸子、小菅知三、田中健士、横倉泰信

事務局（4 名）

宮端行政管理課長、池田主査、吉江主査、原田主任

### <開会>

#### 【部会長】

皆さん、こんにちは。

ただいまから、第5回新宿区外部評価委員会第3部会を開催いたします。

本日は、評価の取りまとめとして、計画事業の評価、経常事業に対する意見の取りまとめを行います。次回、個々の事業の評価を踏まえて、施策評価の取りまとめを行います。

それでは、評価の取りまとめを行います。

委員の皆様には、「外部評価チェックシート（第3部会）」（施策評価、計画事業評価、経常事業取組状況）が配られています。このチェックシートには、各委員の評価や意見が記載されていますので、これを基に、部会としての評価の取りまとめを行います。指名された委員は、ご自身の評価や意見の補足説明等をお願いします。

まず、計画事業80「にぎわいと魅力あふれる商店街支援」についてです。

私の評価の説明からさせていただきます。

「総合評価」についてです。

本事業については、「にぎわい」と「魅力」ということがキーワードになっていると考えます。しかし、どのような主体によって、にぎわいや魅力というものが創出されるのかについて、明確にされていないのではないかと感じます。主体としては、地域住民がいます。地域住民の中には、若者や高齢者、外国人など様々な方がおり、そのような点を区としてどのように見ていくのかということを考えてはいけません。商店街支援については、何のために商店街を支援するのかということをもとに考えていく必要があります。個々の商店への支援なのか、商店街というまとまりについての支援なのか、そのようなことを分けて考える必要があります。

また、支援の方法については、補助金の交付という手法が取られています。支給対象についての分析や何のための事業なのかという分析が、内部評価からはあまり見えてこないように感じます。

「これまでの行政評価を踏まえた対応に対する意見」については、予算の執行率の向上という観点だけから補助対象を選定するのではなく、どのような観点からにぎわいということに貢献していけるのかということの説明すべきなのではないか。執行率だけではなく、どのような観点から見て、どのような成果があったのかということのほうがより重要ではないかと思えます。

「取組方針に対する意見」については、情報提供の視点について、明確化、重点化すべきではないかと思えます。特に、外国人に対し、多言語化も含めどのように情報提供していくかを考えていく必要があると思えます。

#### 【委員】

「総合評価」についてです。

商店会サポーター制度を活用するなど、イベント等の事業助成については、おおむね計画どおり実施していると思えます。一方で、新宿区商店会連合会ホームページ「新宿ルーペ」があまり活用されていないので、その有効性については改善が必要であると思えます。

事業全体としては、「計画どおり」と評価します。

「これまでの行政評価を踏まえた対応に対する意見」については、計画事業82「環境に配慮した商店街づくりの推進」との事業統合については適切であると評価します。しかし、「新宿ルーペ」の活用促進に関しては、店側の情報や更新も少なく、ホームページそのものの改善が必要であると思えます。

「取組方針に対する意見」については、商店会情報誌「新宿商人」による情報提供、商店会サポーターによる支援は、おおむね一定の成果を上げていると思えます。

「その他の意見・感想」についてです。「新宿ルーペ」は、実際に利用してみましたが、商店街のイベント情報も少なく、個々の商店の情報が更新されていないものが多いように感じました。また、口コミ等の書き込みもあまりなく、利用者に活用されていないという印象です。利用者がお店を選ぶ際などに、「新宿ルーペ」が役立つように改善を望みます。

#### 【委員】

外部評価における区民の視点での評価というものは、サービスの受け手としての視点というように読み替えることができると思えます。そのため、本事業の評価についても、サービスの受け手としての区民がどのように考えているのかという視点が必要ではないかと思えます。

そのため、補助金の交付件数が目標を達成したということについては、一定の評価ができると思えますが、評価すべき点はそこではないような気がします。サービスの受け手である区民のニーズ、消費者のニーズは、非常に多様化し、日々変化していると思えます。そのようなニーズを商店街がきちんと把握しようとしているのかということが、内部評価の中から見えてこないと感じます。より大きな視点で考えるのであれば、「にぎわい」や「魅力」ということを、

区としてどのように捉えているのかということが分かりません。

「にぎわい」ということは、人がたくさん集まるということだけではないと考えます。そのため、来街者数、年齢層、購入の頻度など、どのようなことを「にぎわい」として捉えているのかについて内部評価に記載されているとより分かりやすいのではないかと思います。また、商店街の「魅力」について、区民とどのような連携が図られているのかということが見えると良いのではないかと考えます。

商店会サポーターについては、書類作成等の支援で非常に活躍しているということは、よく分かりました。しかし、店舗オーナーの後継者や高齢化の課題について、商店会サポーターが活躍しているのかどうかということについては内部評価からは見えませんでしたので、実際にどのように取り組んでいるのかについても見ると良いのではないかと思います。

#### 【委員】

「にぎわいと魅力あふれる商店街支援」という事業名に対して、「にぎわいと魅力あふれる」の定義が、分かりにくいという印象を受けます。特に、商店街を支援するに当たって、何を支援しようとしているのか、お金の面のみの支援なのか、そのような点が不明確であると感じました。特に今、商店会は、高齢化の問題や後継者不足の問題を抱えており、そのような問題にあまり触れることなく、補助金制度の事業を実施するという点については少し違和感を感じます。

商店街のにぎわいと魅力づくりを推進するということを考えた際に、商店街が地域に対してどのように貢献できるのか、また、どのような商業的連携をできるのかということが重要ではないかと思います。そのため、商店街の人たちが、自分たちの活動を振り返るような機会を設ける必要があるのではないかと感じます。

ヒアリングにおいて、商店街は地域社会のインフラであるという説明もありました。活気のある商店会が補助金を受けている一方で、十分に機能していない、補助金を受けていない商店会も相当数あると思います。そのような十分に活性化していない商店会が、自分たちの商店会や事業について考える機会が必要ではないかと思います。区が、地域インフラとして商店街を考えているのであれば、すべての商店街がそのようなことを考えたり、学んだりする機会を、ある程度提供することが必要ではないかと感じます。

#### 【部会長】

各委員の意見は、おおむね共通しているのではないかと感じました。今、ご意見を頂いたような視点が内部評価に欠けているのではないかとということが一つ言えると思います。また、評価に関しても「計画どおり」ということで意見が一致しています。

具体的な内容としては、意見に合ったような施策の検討はあるのか、商店街振興を目的としているが、最終的な目的として適切なのかということがあると思います。より大きな視点で考えるのであれば、地域住民や消費者、コミュニティという観点から見て、この事業がどう評価できるのかということになると思います。その点に関しては、区ではあまり検討していないのではないのか、不十分なのではないのかという意見であったと思います。

### 【委員】

平成29年度の外部評価において、「それぞれの商店街の現状を踏まえて、個々の課題解決に向けた支援をしていく必要があるのではないか。」という意見があります。このような課題について、各商店会が自ら考えていくような機会を補助事業の機会を通じて作っていかないと、商店街がなくなるという危機にも直面する可能性があるのではないかと考えます。

また、補助金の報告書の中には、それについて、来街者がどのぐらい来たのか、売り上げがどれだけ上がったかなどの評価があります。しかし、イベントに対する商店会の満足度や、来場客の満足度は評価として書かれていません。そのようなことについても、各イベントを行うたびに商店会が考えるということをしなければ、同じような事業を繰り返していきただけになってしまうことも考えられます。そのため、今の区民ニーズや地域ニーズを取り入れてイベント等が行われているのかどうか、この事業の枠組みとしてそのような観点も持ったほうが、商店街の活性化ということに向けて意味があるのではないかと考えます。

内部評価の基準は、あくまで前年度に行った事業に対する評価ですので、事業自体を何のために行っているのかということに立ち戻った考え方を盛り込む必要があるのではないかと考えます。

### 【委員】

本事業は、商店街の自主的な活動を支援するものなので、主体はあくまで商店街です。しかし、区として商店街を地域インフラと位置付け、商店街を無くしたくないという思いを持っているのであれば、どのような支援が必要なのかについて、商店街自身が考える機会をある程度喚起するという事はしていくべきではないかと思えます。

### 【部会長】

本事業は、補助事業ではありますが、申請のあった商店街にただ補助金を交付していただくのではなく、何らかの補助を必要としている商店街にも支援ができるように取り組んでほしいということかと思えます。

続いて、計画事業81「商店街の魅力づくりの推進」についてです。

私の評価の説明ですが、大学との連携事業については、ヒアリングを通じておおむね妥当ではないのかと考えました。商店会情報誌については、上質で充実した内容であると感じました。しかし、活用については十分とは言えず、より有効な活用が図られるように取り組んでほしいと思えます。

### 【委員】

商店会情報誌や大学との連携による商店街活性化は、一定の成果を上げていると思えます。そのため、計画どおりと評価します。大切なのは、これらの取組が一過性で終わらないように、フォローアップをしていくことだと考えます。大学との連携事業は、連携した商店街の新たな魅力発見にもつながるので、是非推進していただければと思います。

また、現行の大学とのコラボレーションは、商店街のPRや集客方法を主としていますが、今後は空き店舗を利用して、大学生主体による実験的な店舗運営などができるのではないかと

感じました。

#### 【委員】

商店会情報誌については、定期的に非常にきれいなものを作成しており、有効な資料として評価できると思います。しかし、外部評価という観点から、サービスの受け手としての区民の視点で考えると、「新宿商人」という情報誌が、区民のためのサービスになっているかということについては、少し疑問が残るように感じています。店舗などの紹介だけでなく、各商店街の特色やどのようなお客さんが集まっているのか、お客さん同士の交流会などの消費者に直接届くような情報があると、より一層情報誌としての効果が上がるのではないかと思います。

大学との連携事業については、大学の専門性を活用しているということは分かりますが、人的資源のほかに、どのような内容で大学の専門性と商店街が結びついているのか、内部評価では見えません。有効性という視点から考えると、大学との連携だけでなく、町会・自治会や地域団体との協働ということを考えていくべきではないかと思いました。

#### 【委員】

商店会情報誌「新宿商人」については、まだ始まったばかりということはあるのですが、この情報誌で紹介できる商店会や商店がどれだけあるのかということは、疑問に感じました。情報提供ということは確かに大事なことです。情報提供の仕方については、情報誌の内容をきちんと考えていかないと、結果的にあまり特筆するものではなくなってしまう可能性があります。今後、十分に検討して行ってほしいと思います。

大学との連携事業については、現状では、大学と近い商店会と連携していますので、今後、大学の近くではない商店会とも連携できるのかが一つの課題になるのではないかと思います。また、大学の資源がベースになっているので、商店街が望んでいることや商店街の将来のビジョンと実際の事業内容がしっかりとすり合わせができていけるのだろうかということは、注視していく必要があると思います。その点、もう少しヒアリングで聞ければ良かったと思います。

#### 【部会長】

ありがとうございます。

商店会情報誌も大学との連携事業も、事業自体は実験的に実施しているということがありますが、今後、このような取組が一般化していくということが理想ではないかと感じます。まだ、始まって間もない事業ですので、課題は多くあると思いますが、その点も含めて内部評価していただければ良いのではないかと思います。

次に、計画事業82「環境に配慮した商店街づくりの推進」についてです。

商店街の街路灯のLED化は、商店街振興だけではなく、区の環境施策の一環としての政策という面もあると思います。取組については着実に推進されていると考えます。LED化できる商店会については、随時実施していく一方で、費用面も含めてLED化が難しいという商店会もあると思います。そのようなところに対して、今後、区としてどのように取り組んでいくのかということが気になりました。

また、LED化以外にもドライミストなど補助の対象となるものがあるとのことですので、

LED化以外のものについても検討していったらどうかと思います。

**【委員】**

LED化は、とても大事な事業なので、是非推進してもらいたいと思います。

**【委員】**

環境面に配慮した商店街づくりということについては、地域全体のことにも関わりますので、LED化を中心にして、より一層の環境に配慮した商店街づくりに期待したいと思います。

**【部会長】**

ありがとうございます。

次に、計画事業83「商店街空き店舗活用支援」についてです。

空き店舗の活用については、店舗から店舗へという流れが理想なのだと思いますが、必ずしもそうはいかない場合もあると思います。その場合には、例えば、店舗を住宅として活用する、店舗を駐車場として活用していくなどの可能性もあるかと思っています。その点について、区としてはどのように考えているのか、所管課を超えた政策的な可能性についても検討していったらどうかと考えました。

**【委員】**

空き店舗の活用について、例えば、NPOとコラボレーションして、高齢者向けカフェや学習塾を作るなど、より広い視野で使い方を提案することはできないかと感じました。

**【委員】**

新宿区商店街空き店舗検索サイトの認知度を高める取組を進めてきたということですが、借り手の方から見て、サイト自体に魅力があるのかということが疑問に感じました。

また、空き店舗活用支援資金の助成実績と新宿区商店街空き店舗検索サイトの検索結果との関係性があまり見えません。そのため、この二つの取組を同じ観点から評価してしまうと、きちんと評価できないのではないかと感じます。それぞれの要因をもう少し整理して、空き店舗対策の実態に合った手法を工夫したほうが良いのではないかと感じました。

**【委員】**

個人的には、空き店舗の活用ということは産業振興課の仕事ではないと思います。商業という観点から考えれば、発展性ということが重要であると思うので、そのような事業にもっと力を入れていくべきではないかと思っています。

**【部会長】**

市場として見た場合には、新宿区は空き店舗は少ないのではないかと感じます。全国的にはもっと多くの空き店舗があると思いますし、他自治体も何かしらの対応をしていると思います。現在の新宿区の対応はかなり絞り込んでいますので、もっと幅広く実施するのであれば、空き店舗に入る可能性はあるかもしれませんが、それも議論があるかと思っています。

このような問題や課題を、今後検証していく必要があるということだと思います。

では、計画事業については、ご議論いただいた内容を踏まえて意見としてまとめる形にしたいと思います。

続いて、経常事業についてご意見ををお願いします。

まず、経常事業538「生鮮三品小売店活性化事業」についてです。

**【委員】**

商店会サポーターとの連携もあり、一定の成果を上げていると思います。しかし、生鮮三品小売店連絡会の加盟店が年々減少している点においては、活動内容の形骸化も含め、事業の見直しを検討する時期ではないかと思えます。

**【委員】**

新鮮で良質な生鮮品の提供ということは、消費者にとって大変ありがたいことです。また、そのことを通して交流、販売促進を図るといふ狙いは、非常に大切なことであると思えます。

しかし、新宿区という立場から見た場合、事業の規模が小さいのではないかと思えます。公益性や公共性、今後の発展性ということとを考慮すると、もう少し幅広く各地域で展開できるような事業にしていくべきではないかと思えます。

**【委員】**

生鮮三品小売店の活性化事業ではありますが、生鮮三品小売店連絡会の加盟店の減少の推移を見ても、活性化という段階を下回っているのではないかと感じました。その意味では、活性化ということが果たして必要なのかということについても、費用対効果も踏まえて検証していく必要があるのではないかと考えます。

**【部会長】**

ありがとうございます。

次に、経常事業539「商店会サポート事業」についてです。

**【委員】**

現在連携している4大学の活動内容を見ましたが、4大学それぞれに面白い切り口でもって、商店街の魅力を引き出しているのではないかと思いました。

**【委員】**

商店街活性化のために、専門知識のある商店会サポーターを中心として実施している事業です。商店会サポーターの実際の役割は、助成の申請や実績報告等の支援が中心とのことですが、そのような書類作成等の支援だけではなく、本来の商店街のにぎわいと魅力づくりの支援活動についても、より力を入れてほしいと思えます。

**【部会長】**

ありがとうございます。

次に、経常事業540「新宿区商店会連合会への助成事業」についてです。

**【委員】**

申請に至らなかった理由について、ヒアリングの中で質問しましたが、はっきりとした回答は得られなかったような気がします。その意味では、助成事業としての規模や内容について改善が必要ではないかと思えます。

**【部会長】**

前回の申請は、平成27年度の新宿区商店会連合会ホームページ「新宿ルーペ」の開設でしたね。

**【委員】**

「新宿ルーペ」については、新規事業として開始してから現在まで継続してサイトを運営していますが、今後このサイトをどのように運営していくかについても気になります。このようなサイトは、他自治体においても同様のものを作っていると思いますが、あまりアクセス数が伸びていないのが現状だと思います。サイトの内容が、検索する人の目的に合っていないのだと思います。そのような事業を継続しているということについて、検証する必要があるのではないのでしょうか。

**【委員】**

最初の検討段階で目的が明確でないと、ただ作っただけで終わってしまう可能性があると思います。今後どのようにしていくかということについても、きちんと見極める必要があると思います。

**【部会長】**

今の「新宿ルーペ」の話に関しては、事業立ち上げの際に、経常事業540「新宿区商店会連合会への助成事業」で費用の一部を助成し、経常事業539「商店会サポート事業」で運営の支援をしていくということになると思います。

立ち上げの際に助成をするという事業については適切だと思いますが、事業開始後のフォローも含めて考えていく必要があると思います。

次に、経常事業541「商店街消費拡大推進事業」についてです。

私の意見ですが、スクラッチくじ方式の抽選券の効果が分かりにくいということがあると思います。平成30年度から個店に対するアンケートが予定されており、その結果はまだ出ていないとのことでしたが、アンケートの結果によっては事業手法自体を見直すことも必要ではないのかと考えます。

**【委員】**

スクラッチくじ方式の抽選券の換金率が69.9%ということですが、換金率だけを見ると消費者にとって魅力あるイベントかどうか疑問に思います。

このイベントがどれくらい消費拡大に寄与しているのか、店主はイベントを望んでいるのかということについて一度検証してみる必要があるのではないかと思います。

**【部会長】**

経常事業については、今いただいた意見を中心にまとめたいと思います。

以上で、計画事業及び経常事業の議論がひとまず終わりました。

では、本日の部会はここまでとします。

ありがとうございました。

<閉会>



